

令和4年度 学校評価総括表

阿波市立伊沢小学校

1 学校教育目標 「知・徳・体の調和を図り、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」 ～「いさわ」のよさを生かした教育の創造～

2 本年度の重点目標

- (1)児童の健康・安全を守る取組の推進 (2)授業改善の推進による確かな学力の向上 (3)学校全体で取り組むポジティブな行動支援(SWPBS)の推進
(4)「学校の在り方」改革・改善の推進 (5)関係機関との連携

3 本年度の「育てたい子どもの姿」

- (1)自ら学び、考え、自分のよさを伸ばす子ども (2)自分も友達も大切に子ども (3)心も体もたくましい子ども

4 総括表

領域	評価項目	評価の観点	自己評価		次年度への改善点等	学校関係者評価	
			考察(成果と課題)	評価			
学校経営	経営方針	学校経営方針の周知	年度始めに、学校長から出された経営方針を職員で周知するとともに、学校だよりや学年通信で取組を知らせよう努めた。自己評価は昨年度より5%以上上昇し、保護者評価も82%以上と高いので、今後も引き続き分かりやすく伝える心がけていく。	A	PTA役員会や懇談会等の機会に説明するだけでなく、学校だよりやホームページを活用し、周知を図る。	A	B
	開かれた学校	保護者・地域への情報発信・連携	学年・学校の取組や連絡事項については、懇談や通信、ホームページ・保護者向けメールを活用してこまめに伝えるようにした。自己評価は80%と昨年度同様高く、保護者評価も同様には83%となっているので、よく分かる情報発信となるよう工夫していきたい。コロナ禍でも連携できる方法を模索し、オンライン学年懇談等を実施し情報発信す「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えた児童はそれぞれ84%、96%であり、「学校は安心して生活できる」と答えた保護者は83%であった。さらに職員間で連携をとりつつ児童が安心して生活できるよう努めていく必要がある。	B	オンラインでの情報発信の工夫、学年だより、メール連絡を駆使し児童の活動の様子を伝える回数を増やす。	A	
	学級経営	一人一人を大切にす学級経営の実践	「授業がよく分かる」の児童評価は84%、保護者評価は86%となっている。職員の自己評価も昨年度より6%上昇し80%である。ICTを活用した授業が展開できたことが評価の上昇の一因である考えられる。コロナ禍においても、1人1台タブレット端末を有効に活用しオンライン学習を行うことで、学力保障を行うこともできた。児童の確かな学力を向上させることができるよう、さらに職員全体の資質を上げていく必要がある。	A	児童の実態把握に努め、職員間で常に共通理解を図りながら、組織全体で児童支援に取り組む。	B	
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	「働き方改革」への理解・協力についての保護者評価は88%であり、実践すると答えた職員は6%上昇し76%であったがまだ不十分な状態である。PTA活動のスリム化、欠席連絡の省力化等校内業務の見直しを行うことで職員の勤務時間の短縮に努めた。	B	学力向上実行プランの課題を解消するために、職員研修を行い資質向上を目指す。ICTを活用した学力保障についてもさらに進めていく。	B	
	環境整備	安全で美しい学校環境の整備	環境に関する保護者評価は92%、職員評価は14%上昇し98%であった。施設・設備については、定期的に安全点検を実施し修繕等を実施している。さらに点検を実施し、安全で美しい環境整備に努める。	A	設備の老朽化が進んでいるため、安全点検をこまめに実施し、危険な箇所の早期改善を図る。	A	
	業務改善	働き方改革の推進	「授業中先生や友達の話の聞いている」と答えた児童は87%であるが、「分からないことは質問している」には78%となっている。「読書が好きだ」と答えた児童は74%であり、減少した。昨年度学校図書館を利用・活用し、言語能力を高めることで学習内容の定着を図る研究成果を再確認する必要がある。	B	常識にとらわれないこと、校内業務のスクラップ&ビルドを断行し、業務を見直し職員の勤務時間の短縮につなげる。	B	
	学力向上	基礎基本の定着学習意欲	「友達に会うのは楽しい」96%、「友達を大切にしている」90%と昨年同様児童評価は高くなっている。「仲良く助け合って活動している」に対する職員評価は84%、保護者評価は86%であった。一方で「困ったことがあったとき、だれかに相談している」割合が低下し、74%となっているのが少し気がかりである。児童のいじめやアンケート等から実態を把握し、職員間で行っている「寄り添う会」で共通理解を図りながら人権教育を確かなものにしていく。	B	家庭学習の習慣がついている児童は94%と高いので、学習内容が定着するよう課題を工夫する。	B	
	心の教育(人権教育)	人権尊重精神の育成いじめ防止		B	いじめ防止子ども委員会の活動を活性化するとともに、アンケート等からの情報を職員間で共有し、学校全体でいじめのない学校づくりに努める。	B	

教育活動	生徒指導	望ましい生活習慣の育成	「きまりを守っている」についての児童評価は86%、保護者評価77%である。あいさつについても「きちんとしている」と答えている児童は87%と答えているが、職員は53%であり、評価が分かれた結果となっている。 タブレットパソコンを持ち帰ることが増えたため、動画視聴の時間が増え、インターネットの利用時間も長くなる傾向にあることから、15の約束を定め情報モラルを身に付けるとともに、賢い消費者として正しい知識を身に付けるよう努める。	B	B	本年度作成した、「タブレットパソコンのよき使い手となるための15の約束」を遵守し、情報モラル教育や消費者教育について尚一層充実させていく必要がある。	B	B
	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立	体育の時間以外にも外遊びをしている児童が多く、体力向上につながっていると思われる。一方、インターネット利用が増えている傾向があり、SNS上のトラブルやゲーム依存、それに伴う睡眠不足が心配である。	B		マフフやなわとひカードなどを工夫し、児童の運動意欲を高める。また、懇談などの機会に望ましい生活習慣について保護者に伝えていく。	B	
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の向上	「学校教育活動やPTA活動に参加・協力しているか」に対して保護者評価は70%と低いが、職員評価は90%と高くなっている。コロナ禍ではあるが、感染対策が定着したこともあり、学校行事がすべて開催でき、その参加率が非常に高く、交通安全指導にも積極的に協力し児童の安全を見守ってくれている。そのため職員は地域の教育力が高いと	A		保護者や地域と課題を共有する場を設定し、協力しながら課題解決に取り組んでいく。	B	

5 学校運営協議会委員からのご意見

- ・すべての行事が開催できたのはとてもよかった。
- ・働き方改革は管理職が率先して行ってほしい。
- ・アンケート調査が悪い方に偏っていないのは評価できる。
- ・不適切動画のアップロード等が問題となっている。GIGA端末の持ち帰りが日常的に行われている状況の中で、今後情報モラルの醸成を保護者とともに行っていく必要がある。
- ・中高生が学校に来られる機会を作っていくこともこれからは大事なのではないかな。
- ・手間のかかる子ばかりではなく、おとなしい子、手がかからない子にも手をさしのべてほしい。
- ・スクールカウンセラーの保護者の活用が進んでいるようだが、今後も続けてほしい。
- ・ICTでできることは積極的に行ってほしい。
- ・地域のボランティア、民生委員にも、もっとお願いをすればいい。